



ほけんだより 7月号

気温や湿度が高くなるこの時期は、あせもや食欲の変化が見られやすくなります。おうちでも無理のない涼しい環境づくりや、こまめな水分補給をお願いします。体調で気になることがあれば、いつでもご相談ください。



社会福祉法人大和善隣館
やぎき乳児保育園
令和8年7月



肌トラブル



夏に起こりやすい病気

感染症

水いぼ

症状: 1~5mm 程度の大きないぼができます。白を呈し水っぽい光沢のいぼになることから「水いぼ」と呼ばれます。積極的に治療しなくても、自然治癒しますが、長くかかる場合があります。また外科的に切除することもあります。

登園基準: 登園停止はありません。

とびひ

症状: 虫刺され、擦り傷などを引っ掻いたところに細菌が傷口につくことで感染します。強いかゆみや水疱が破れてジュクジュクする、同じようなものが多発する。

登園基準: 患部をガーゼで覆って登園できます。治るまで水遊びができません。



あせも

症状: 1~3mm 程度の白っぽい発疹や、赤いぼつぼつとした発疹です。かゆみや、チクチクするかゆみが伴う事もあります。症状が強い時は、ヒスタミン剤やステロイド剤を使用することがあります。

登園基準: 登園停止はありません。



手足口病

症状: 手のひら、足底、足背、口周囲、外陰部、に水疱ができる。発熱することもある。

登園基準: 熱がさがり、普段の食事ができるようになってから。



ヘルパンギーナ

症状: 高熱や喉の痛みが特徴。喉に水疱や潰瘍ができて、痛みがひどく、食べたり飲んだりできないことがある。

登園基準: 熱下がり 24 時間経過し、普段通りの食事（哺乳）ができるようになってから。



アデノウィルス（咽頭結膜炎・プール熱）

症状: 感染力が非常に強く、38.0℃以上の発熱、喉の痛み・腫れ、結膜炎、下痢。

登園基準: 発熱、喉の痛み、結膜炎、下痢など症状が治まってから 2 日間経過後。



熱中症は
まだまだ注意
が必要です



熱中症は、日射病、熱射病などの総称です。日射病は、戸外で強い直射日光にさらされることが原因で、熱射病は室内でも気温の高い場所に長時間いたために起こることが原因です。



熱中症の症状

日射病…顔は赤く、呼吸が荒くなります。皮膚感覚は熱く、体温が上がっても汗が出ず、めまい・頭痛・吐き気などを伴います。

熱射病…顔は青白く、大量の汗をかきます。皮膚感覚は冷たく、めまい・吐き気を伴います。



日陰やクーラーのきいている場所に移動し、衣服を緩めます。濡ったタオルなどで体を拭きつつ冷やしましょう。首や脇やあしの付け根を冷やしましょう。



水分が摂れる時は少しずつ摂りましょう。経口補水液があるときは、そちらで水分を摂ります。

予防のポイント

- 日中は帽子をかぶって外出をしましょう。日除けのあるベビーカーも照り返して暑くなるので、散歩はできるだけ短時間で切り上げましょう。
- 炎天下での遊びは、長時間に及ばないように注意しましょう。海や屋外プールなどの水辺でも、30 分毎に日陰で休息をとるようにしましょう。

熱中症にかかったら

救急車を呼んでください！

- 意識がない
- 自力で水が飲めない
- 呼びかけに反応しない
- 体温が 40℃ 以上
- 会話が成り立たない
- けいれんしている
- 自力で立てない・歩けない

日焼け止めの使用について

園では、お子様に日焼け止めを塗ることをしておりません。必要な方は、お家で塗ってから登園して下さるようお願いいたします。日焼けが気になるお子様は服装などで対策したいと思いますので、担任までご相談ください。